

兵庫県がん登録室

石田 輝子

兵庫県立成人病センター

1) 沿革；昭和38年に県立成人病センターの前身である(財)兵庫県がんセンターに衛生部予防課分室が置かれ、保健婦1名で出発した。昭和46年に、兵庫県立病院がんセンターに移行し、調査集検部がつくられ、保健婦は1名に増員、調査集検部長が指導する事になった。昭和59年に兵庫県立成人病センターとして明石市に移転したが、組織上の不備により業務は中断した。県会で問題になり、平成1年より保健婦2名が配属され、少しずつ業務は回復した。現在は保健部地域保健課よりの委託業務として、成人病センター・検診センターのがん情報調査室で、受付から集計までを行っている。

2) 人員；保健婦2名、パート職員3名、医師1名(検診業務と兼任)、出張採録時には毎回ではないが地域保健課の職員1名も出張。保健婦はコード付け、集計、解析、外部との折衝を、パート職員はコンピュータ入力、その他雑用を担当している。

3) 届出数、登録数；平成7年度の届出数は自主届出9,313(病院退院サマリー3,098)、補充届出2,187(12.9%)、出張採録4,934(29.0%)、県外がん登録室より559で合計16,993である。届出票による自主届出が少なく、サマリーが多いため、コード付けに時間がかかる。出張採録件数も多く、職員の負担になっている。

対象人口は約550万人で、平成5年診断罹患数は15,448(DCO 30.6%、補充票 8.1%)、I/D値は1.41である。男は全部位9,160人(世界人口による年齢調整罹患率228.4)、胃2,123人(52.3)、肺1,572(38.1)、肝1,266(31.8)、結腸748(18.6)、直腸498(12.6)、女では全部位6,288人(125.8)、乳房905(21.4)、胃1,097(20.5)、全子宮533(12.4)、結腸590(11.3)、肺545(9.6)、肝545(8.3)である。

毎年の集計、解析結果はその年に発行する冊子「兵庫県におけるがん登録」に掲載している。

4) データ処理；1985年よりACOS410-MODEL10により処理していたが、1996年より新システムを開発している。サーバー/クライアント方式でNEC SV-EXPRESS 5800-240、PC-9821 V10でネットを構築している。今回の改良点はICD-10への対応、集計表出力時のパラメータ

一設定に大幅に自由度を持たせた事、集計結果を他ファイルにEXPORTし編集できるようにした事である。

5) 届出促進の努力；①1996年に県下の全病院の医師にアンケート調査を行い、がん登録の周知度を知ると共に、意見を聞いた。②主要病院で届出の少ない病院に対し、地域保健課長等が訪問し、届出を要請した。③冊子「兵庫県におけるがん登録」の詳細な付表を除いた要約版を作り、各届出医に配布した。④年度末に1回連絡調整会議をもち、その年の登録結果を発表すると共に、講師を招いて疫学的な話をしてもらっている。

6) 今後の課題；①届出件数を増やし登録精度を高める事(届出数が少なくDCO率、補充票の率が高い。又採録の件数も多く職員の負担になっている。)

②人の育成；保健婦は2~3年で転勤するため、知識の蓄積ができない。又、取り扱う件数が多く、日常業務で手一杯である。医師は検診業務と兼務であるため、十分な時間を割く事ができない。後継者を養成するにも常勤のポストがないため難しい。

③届出の拡大、予後調査、疫学研究のため、医師会、保健所、大学病院等との連携が必要。

④情報保護及び利用のための規約、組織をつくること。

⑤コンピュータのプログラムを作成できるものがないため、全て外部に委託する必要がある、一度作ったプログラムの修正が困難。常時そのための予算が必要である。

⑥データの公表は現在冊子のみにより行っているが、FDD、インターネットでも見たいとの要望あり、準備中。インターネットは今年度、成人病センターで病院の紹介、がん情報の発信を目的として、県庁のサーバーにホームページを開く予定。がん登録も現在簡単な届出依頼の画面しか作成していないが、今回のシステム開発により、集計表を編集できる機能を持たせたので、順次更新して行く予定。

協議会事務局からの御願い

協議会事務局では、毎年、その年に刊行された各登録室の出版物、特に年報を収集していますが、これにより、登録地域間の罹患率の比較を主要部位について行うことを計画しています。出版時には、お忘れなく1部を本協議会事務局へ送付下さるようお願いいたします。